山口大学レポート2025

YUR
Yamaguchi University Report

山口大学レポート 2025

Contents

02 学長挨拶

03 明日の山口大学ビジョン2030

06 実績
- キャリアセンターは良き伴走者
- One Welfare 国際研究センター
- 地域社会の課題解決に全力で取り組む
- 世界を感じるキャンパスで学ぶ

15 特集　ひと・まち未来共創学環

19 山大Topics&News

22 財務データ・ガバナンス
- 財務情報
- 山口大学の内部統制体制について

31 山口大学基金

33 山口大学病院が目指す「安心」と「未来」

35 山口大学データ集
- 山口大学の気になる数字
- 入学志願者・入学状況
- 卒業者・修了者の就職状況

Cover Story

山大発ロックバンド「Dear WENDY」

山口大学経済学部の学生が結成した3ピースロックバンド「Dear WENDY」。2024年8月には初のアルバムをリリースし、全国8都市を巡るライブツアーも実施。「山口の音楽シーンを盛り上げたい！」との熱い思いを胸に、音楽活動をつづけています。

山口大学レポートに関するご意見等をお寄せください。
yu-info@yamaguchi-u.ac.jp

発行:山口大学総務企画部広報室
発行年月:2025年6月

しなやかに
未来を切り拓く
山口大学

学長挨拶 Greetings from the President

人は五感を鋭くして情報を集め、それを統合して判断を下してきました。最近では人の「五感」を超えるセンサーが人を含めたあらゆるところから情報を集め、インターネット上に存在する多くの情報を総合して提供してくれます。コンピュータの能力はますます高まり、人工知能(AI)は人を超える能力で現在得られる情報を瞬時に統合して解を導きます。しかしながらそれに指示するのは人であり、結果をもとに的確な判断を下して実社会に活用してゆくのは人の仕事です。2025年4月、山口大学にはひと・まち未来共創学環、人間社会科学研究科という学部相当の学士課程、大学院修士課程が誕生しました。ここでは専門性とともに学際的な学びを行い、自ら課題を発見し、解決法を求める、前述のような現代社会で期待されている役割を演じることができる人を育てます。社会は常に変化し、求められる能力も変わり得ます。山口大学は学部・大学院の改変や新設により、あるいは既存の組織においても常にカリキュラムなどをアップデートしてその時々の時代が求める人材を育成しています。また、先端的研究・開発により、科学や産業の発展に貢献しています。

1815年に長州藩士・上田鳳陽により創設された山口講堂を起源とする山口大学は、210年の歴史を経て、9学部、1学環、7研究科からなる基幹総合大学へと発展しました。「発見し・はぐくみ・かたちにする　知の広場」を理念とし、2022年に策定した明日の山口大学ビジョン2030では、「知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する」を中心的な目標と定めました。ダイバーシティを活力の源泉と捉え、全ての構成員がそれぞれの個性を発揮し、多様な価値に共感・共鳴してつながる、魅力あるダイバーシティキャンパスを形成しつつあります。同時に、総合大学が生み出す多様な知が共奏することにより、変化する社会をしなやかに先導したいと考えています。「山口大学レポート2025」はこうした本学の2024年度の歩みをまとめた年報です。このレポートが、みなさんに山口大学をより深くご理解いただくための一助となれば幸いです。本学は理念・目標の実現に向けて、たゆみなく歩みを進めて参ります。引き続き温かい激励、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2025年6月　山口大学長　谷澤 幸生

明日の山口大学ビジョン2030

～知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学～

山口大学は、2008年に「明日の山口大学ビジョン」を策定、公表しました。さらに創基200年を迎えた2015年には「明日の山口大学ビジョン2015」を策定し、「2025年にはDiversity Campusへ」を中心的目標として着実にそのビジョンを実現しつつあります。

2023年に策定、公表した「明日の山口大学ビジョン2030」では、<知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学>を中心的目標として定めました。この目標の実現に向けて、地域に根ざし、人材を育成し、知を世界に発信します。

知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学

明日の山口大学ビジョン2030

URL:
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/university_vision/

ビジョンの内容を分かりやすく伝えるために、国際総合科学部公認デザインサークルS!GNALの学生が、ビジョンのイラストを作成しました。
大学ホームページに掲載しています。
ぜひご覧ください。

VISION 2030

教育 EDUCATION

既存の学問領域の上に立ちつつ、既成概念に捉われない発想、多様な価値観と深い洞察力を持って、地域社会や国際社会の困難な課題に果敢にチャレンジし、近未来の社会をしなやかに切り拓き、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材を育てます。

1. 地域社会や国際社会で活躍する人材の育成
2. 時代の変化に対応した教育環境の整備
3. 創造的な人材を育成する大学院教育
4. 多様な価値観や経験、能力を持つ優秀な学生の受け入れ
5. 学生支援体制の充実

研究 RESEARCH

様々な社会ニーズの変化にしなやかに対応し、イノベーションをもたらす知を創出し続けます。そのために、総合大学の強みを活かして学際的な知を集め、産学公の連携により、地域活性化に繋がる産業拠点の形成に寄与できる地域イノベーション・エコシステムの構築を図るとともに、世界をリードする研究領域を創造します。

1. 地域イノベーション・エコシステムの構築
2. 世界をリードする研究領域の創造
3. 価値創造の源泉となる学際的基礎研究の推進
4. 優れた研究成果を多く生み出すための研究基盤の整備・充実
5. 持続可能な社会への貢献

地域 COMMUNITY

しなやかに地域で活躍できる人材を輩出するとともに、企業や教育機関、行政機関と協働し、知の拠点として地域のシンクタンク機能を果たすことで、地域の抱える課題の解決に寄与し、地域のステークホルダーに頼られ必要とされる、魅力あふれた大学を目指します。

1. 地域社会から期待されるシンクタンク機能の強化
2. 地域共創拠点の整備
3. 地域の持続的発展に寄与する人材育成
4. 地域学の研究拠点としての教育研究・文化振興への貢献
5. 安全・安心な地域社会実現への貢献

ダイバーシティ DIVERSITY

ダイバーシティを活力の源泉とし、すべての学生・教職員が性別、年齢、障害、民族、性的志向や性自認等に関わらず、それぞれの個性と能力を安心して発揮し、繋がり、活躍することにより、多様な知が共奏するダイバーシティキャンパスを創造します。

1. 学生・教職員の多様なニーズへの支援
2. 教職員のダイバーシティの推進
3. 学生協働の推進
4. 国際展開の強化

経営 MANAGEMENT

学長のリーダーシップのもと、戦略的マネジメントと強力なガバナンス体制により、対話と合意を基本としつつ、しなやかな大学経営を行い、すべての学生、教職員が誇りと喜びを持って学修や職務に取り組みます。また、情報公開により透明性を確保し、地域・社会から信頼される大学を創造します。

1. 信頼される大学づくり
2. 教育研究支援機能の充実及び地域貢献促進のためのDX推進
3. 魅力ある職場環境の構築
4. 健全な財務体制の確立

「明日の山口大学ビジョン2030」マイルストーンについて

山口大学は、<知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学>を目指し、令和12年（2030年）を、そしてさらにその先を見つめて「明日の山口大学ビジョン2030」を策定しました。
この度、「明日の山口大学ビジョン2030」の実現のため、各主要施策において、3年ごと（令和6年（2024年）、令和9年（2027年）、令和12年（2030年））の本学の目指す姿・ありたい姿を示すマイルストーンを設定しました。今後、マイルストーンを設定した3年ごとの状況に沿って、自己点検・評価を行っていきます。

明日の山口大学ビジョン2030
マイルストーンPDF

URL:
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/12/vision2030_milestone.pdf

【マイルストーンの一例】

教育ビジョン

既存の学問領域の上に立ちつつ、既成概念に捉われない発想、多様な価値観と深い洞察力を持って、地域社会や国際社会の困難な課題に果敢にチャレンジし、近未来の社会をしなやかに切り拓き、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材を育てます。

重点戦略１：地域社会や国際社会で活躍する人材の育成

主要施策①：教養教育から専門教育まで一貫した学士課程教育の充実

Society5.0に向けて人間性豊かな人材を育成するために、本学の特色であるSTEAM教育、データサイエンス教育、知的財産教育を充実させます。また、既存の概念や学問領域の枠に捉われることなく、学際的教育やDX教育を展開し、柔軟な学士課程の教育の充実を図ります。

2024	2027	2030
知的財産教育およびSTEAM教育の充実が図られている	データサイエンス教育が深化されている	県内他大学の科目も取り入れた学際的教育科目群が設置されている
令和6年（2024年）	令和9年（2027年）	令和12年（2030年）

の目指す姿・ありたい姿を示すマイルストーン

Achievement
― 実 績 ―

教育 —EDUCATION—

キャリアセンターは良き伴走者

「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」に集まる全学生の良き伴走者として
一貫したキャリア形成・就職支援を実施しています。

学生へのキャリア形成支援体制の拡充を実現

かねてより実施していたキャリア教育と一連の就職支援活動の連携をより一層密接な形にするために、これらの機能を包括的かつ網羅した形で実施するセンターとして2024年4月整備拡充しました。これにより学生サービスのさらなる向上とともに、社会（企業・自治体など）と学生との結びつきを強める体制が確立されました。

キャリアセンター概要

学生とキャリアセンターの関わりは、学部1年生の共通教育科目（知の広場）から始まっています。その後は学部によって異なるものの、高次学年（学部3年生、修士1年生）では各学生の専門分野に沿ったキャリア教育が実施されます。博士後期課程においても、キャリア形成の参考となるよう、博士号取得後の様々なキャリアパスを持った経験者による講義を実施し、博士後期課程学生のキャリア形成を支援しています。

さらに大学から社会へ出る段階で重要な位置を占める就職活動支援（業界・企業研究会、企業説明会、アドバイザーによる就職相談や模擬面接など）についても実施しています。

このようにセンターの業務は多岐にわたるため、センター内に3つの部門（キャリア教育部門、専門キャリア支援部門、就職支援部門）を設置、各部門がそれぞれの役割を果たすとともに、部門間の密接な連携により、学生の良き伴走者となるように活動しています。以下では、キャリアセンターの主な活動の様子を紹介します。

県内企業を知るための『山口きらめき企業の魅力発見フェア（Jobフェア）』

2016年より、大学リーグやまぐちのもと企画・運営しているこのイベントは、2024年度で9回目の開催となり、毎年約1,000名近い来場者があります。県内に事業所を持つ企業及び山口県などの自治体を合わせ90以上のブース出展があり、各ブースでは、趣向を凝らした装飾や、企業や自治体の紹介だけではなく、仕事内容や、社会人の先輩として「働くこと」の魅力などを伝えています。様々な業界・業種を知ることで、学生が自分の将来像を考え始めるきっかけとしての役割を果たしています。2025年度は、10年目となるため、新しい企画などを計画しています。

「学生と企業がツナガル！企業サロン」

企業説明会や業界セミナーとは違い、サロンのような気軽に参加できるイベントです。地元企業で活躍する方々との交流を通じて、働くことへの理解を深めるとともに、学生と企業が“ツナガル”ことを目的としています。企業で働く魅力や仕事のやり甲斐、学生時代を振り返った体験談など、通常の就職活動ではなかなか聞くことができないテーマを通じて、将来の働き方や企業で働くことについて考える機会になっています。

全体支援のキャリア学習講演会、個々の学生には『就職相談・キャリア相談』

キャリアセンターでは、6名の就職アドバイザーを配置して、毎日、学生からの就職相談やキャリア相談に個別対応しています。キャリア形成に関わる相談、企業選びをはじめ就職に関わる全般的な相談、さらには就職時の面接練習など、学生からの相談に幅広く対応しているほか、離れたキャンパスからのオンライン相談にも対応しています。

この他、随時、キャリア学習講演会を実施し、学生のキャリア形成に資することも行っています。

博士後期課程学生のトランスファラブルスキル涵養の場としての『シン・文殊グループ』活動

博士後期課程学生には、より高いレベルのトランスファラブルスキル（様々な職種や業種の企業で応用できるスキル）が求められており、その涵養の場として、この『シン・文殊グループ』活動を実施しています。これは、専門や学年の異なる博士後期課程学生3～4名を1つのグループとして、お互いの研究内容を知り、メンバーの強みを踏まえた異分野融合研究を提案・実施するものであり、年度末には、学生、教員などを交えた発表会を実施しています。当初は、お互いなかなか理解できない部分もありますが、1つのテーマで研究を実施することで、将来必要となるスキルを涵養できる機会となっています。

新しい伴走者としてのキャリアセンター

人工知能（AI）の発達に伴い、今後無くなる職業、新しくできる職業があると言われ、就職支援のあり方も大きく変わることが予想されます。また、入学生のキャリア形成や就職に対する考え方も多様化しており、キャリアセンターの活動については、日々見直しや改善が必要な状況にあります。さらには、通年採用を行う企業も増えるなど雇用側の考えも変化してきています。そのような状況を踏まえ、キャリアセンターのスタッフ一同は、「学生にとって良き伴走者はどうあるべきか」常に考えながら日々の活動の振り返りや各種イベントの企画、運営を実施しています。

学部・研究科

- キャリア教育プログラム提供・実施
- 就職支援・キャリア形成支援
- アンケート等、在校生調査
- キャリア教育プログラムの資源提供
- 各学部等の就職担当教員とセンタースタッフの協働による就職支援
- 各種情報共有

キャリアセンター

キャリア教育部門	**初年次～高年次までのキャリア意識涵養に向けた取組** キャリア教育科目の開講、インターンシップの推進、Jobフェア・ガクセイ社会科見学・企業サロン等のイベント開催 など
専門キャリア支援部門	**JST次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）事業の実施** キャリアマインドの醸成、博士課程前期課程から後期課程への進学の促進、後期課程学生の就職支援、アドバイザーによる相談対応 など
就職支援部門	**就職相談・キャリア相談、学内企業説明会、学内業界・企業研究会** 学内セミナー・就職講演会、求人情報の収集・提供、就活手帳の発行、日経電子版ギフト配布、内定状況調査 など

1. 県内企業を知るための『山口きらめき企業の魅力発見フェア（Jobフェア）』
2. 「学生と企業がツナガル！企業サロン」
3. 全体支援のキャリア学習講演会、個々の学生には『就職相談・キャリア相談』
4. 博士後期課程学生のトランスファラブルスキル涵養の場としての『シン・文殊グループ』活動

ワンウェルフェア
One Welfare国際研究センター

人と動物の健康と福祉は一つであるという考えのもと、地域社会・国際社会と連携したワンウェルフェア研究を全国に先駆けて推進します。

人と動物が健康で幸せに生きるために

山口大学共同獣医学部では、人と動物のウェルビーイング（幸福感）と環境を一体的に捉え、新たな手法・視点による異分野融合研究を推進する産学公連携研究拠点として、2024年11月、「One Welfare国際研究センター」を設立しました。人・動物・環境に関わる様々な問題解決に向けて、地方自治体や企業、市民等の多様なステークホルダーを巻きこんだ先進的な取り組みを目指します。

ワンヘルスからワンウェルフェアへ

新型コロナウイルス感染症に代表される新興感染症の多くが、動物から人へ、人から動物へと伝播可能な人獣共通感染症であり、その対策は世界中で大きな課題となっています。

また、気候変動や環境汚染などによって生活環境が悪化すれば、健康被害を受けるのは人も動物も同じであり、環境の健全性は守るべきものです。

このように人の健康、動物の健康、環境の健全性は、生態系のなかで相互に密接につながり、強く影響し合っています。この考え方をOne Health（以下、ワンヘルス）といいます。ワンヘルスという概念は国際的に既に定着し、医学・獣医学など多分野の横断的な連携による研究が推進されています。

このワンヘルスの考え方をさらに進化させたものがOne Welfare（以下、ワンウェルフェア）です。ウェルフェアとは福祉の意味。健康だけでなく、生活の質や心身のウェルビーイング（幸福感）は、人と動物双方にとって大切なことであり、それ自体も連動しているという概念です。

新たな手法・視点による異分野融合研究

健康については科学的・統計学的な研究が盛んに行われています。一方で、幸福感は主観的であるがゆえに数値化するのが困難であり、科学的アプローチは難しいとされてきました。

これまで山口大学共同獣医学部では、医学部と連携し、人獣共通感染症や食品・環境由来感染症の研究など、ワンヘルス・アプローチによる研究を進めてきました。そこから発展させてワンウェルフェア・アプローチによる教育研究を推進するためには、文理融合の分野横断的な連携、さらには自治体や企業など、地域との連携が必要不可欠です。また、我が国のみならず、アジア・アフリカの獣医学の発展にも寄与するグローバル人材の育成も必要になってきます。こうした背景から、本学では「One Welfare 国際研究センター」を設置し、我が国のワンウェルフェア研究の推進を加速化させる大きな一歩を踏み出しました。

ワンウェルフェア研究を推進する4つの部門

同センターでは4つの研究部門を立ち上げ、データサイエンスやAIを駆使しながら、他学部・他大学・自治体・企業と連携した先進的な教育研究活動を行います。

1）人獣共通感染症部門

医学・獣医学連携を土台にした分野横断的な感染症研究を行っています。具体的には、人獣共通感染症の世界的な分布を調査する疫学的研究、独自に開発した実験材料を用いた病原体と宿主の感染・共生モデルの開発、感染制御法の構築などが挙げられます。

同部門の強みは、ゾウリムシやカイコなど独自に開発した自然宿主モデル材料を用いた解析です。これらは文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）※の中核的拠点整備プログラムに採択されています。

※文部科学省主導の国家プロジェクト。ライフサイエンスの研究に用いられるバイオリソース（実験動物や植物、細胞や遺伝子、微生物等）の収集・保存・提供体制の整備を目的とする。

2）法獣医学部門

凶悪犯罪や虐待、家庭内暴力など、人間に対する異常な暴力的犯罪の裏には、しばしば動物虐待の痕跡が指摘されていますが、そのメカニズムは未だ明らかにされていません。そこで「法獣医学部門」では、不審死の動物を対象とした死因調査、ケガを負った野生動物の救護におけるウェルフェアの評価、県内の野犬対策などを通じて、科学的知見を収集し、実践に役立つ予防的な研究につなげることを目指しています。法獣医学は日本ではまだ確立されていない新しい学問として注目されています。

3）動物介在活動部門

人に寄与する動物のウェルビーイングを検討する部門です。山口大学では「おもしろプロジェクト」の一環として、感受性や共感力が高いとされる馬を使ったアニマルセラピーを実施してきました。今後は、このホース・アシステッドセラピーが馬に与える効果を科学的に解明し、地域社会と連携した取り組みやワンウェルフェアの普及啓発活動を展開します。

4）国際協力部門

世界展開力強化事業によって築かれた、ケニアを中心としたアフリカ諸国、インドネシアを中心としたASEAN諸国との連携を活用した、国際的なワンウェルフェア教育研究プログラムを実施します。具体的には、本学の共同獣医学部生とナイロビ大学の獣医学部生との共同作業による実習、交換留学生制度など。世界各国から研修生を受け入れ、各種研究プログラムを提供します。

総合大学としての強みを生かして

これからの展望について、度会雅久センター長は次のように話します。

「新たな概念からのアプローチによりワンウェルフェアを総合的に推進する組織は他に例がありません。それゆえに私自身も大きな期待を寄せています。ワンウェルフェアの根底にあるのは“違いを知ること”。例えば、日本人が考える幸福とケニア人が考える幸福は違いますし、個々によっても異なります。動物にも同じことがいえると思います。自己と他者の違いを理解して、相手の立場になって考えること。様々な場面において“共感力”が求められてくると思います。そうした意味においても、文理融合の分野横断的な連携による研究は必要不可欠です。今後は、総合大学としての強みを生かしながら、他大学や自治体、企業、関係者との連携を強化し、ローカルとグローバルの2軸で課題解決に取り組んでいきたいと思っています」

One Welfare 国際研究センター長／
共同獣医学部長
わたらい　まさひさ
度会 雅久

地 域 —COMMUNITY—

地域社会の課題解決に全力で取り組む

地域の様々なステークホルダーと連携し、知の拠点としてシンクタンク機能を果たすことで、地域の抱える課題解決に全力で取り組みます。

大学は地域社会において活躍する人材を育成するのみならず、地域の経済・社会を支える基盤として重要な機能を持つ存在です。この機能を十分に果たすため、地域社会に大学はどのような貢献ができるのか、地域社会はどのような卒業生を必要としているか、大学の教育研究に何を求めているのかなどについて、地域社会を構成する関係者でプラットフォームを構築し、課題の共有・把握を行い、議論や様々な取り組みを行っています。

大学リーグやまぐち

山口大学は、山口県内の高等教育機関や経済団体、支援機関及び私学団体が連携を深め、県と協働しながら、それぞれの特性を活かした様々な連携事業の実施を通じて、若者の県内定着並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の一層の向上を図ることにより、地域社会の発展に寄与することを目的として平成２８年に設立された「大学リーグやまぐち」（事務局：山口県総務部学事文書課）に参画しています。

本リーグは、方針決定を図るための合議体である「全体会議」と、その実行部隊として「県内就職部会」「地域貢献部会」「県内進学・魅力向上部会」の３つの部会で構成されています。本リーグにおける山口大学の役割は、「全体会議」の会長を山口大学長が務めるとともに、「県内就職部会」の主管校として、令和１０年度までに学生の県内就職率を１０ポイントアップさせることを目標に掲げ、様々な活動に取り組んでいます。

＜取組の全体像＞

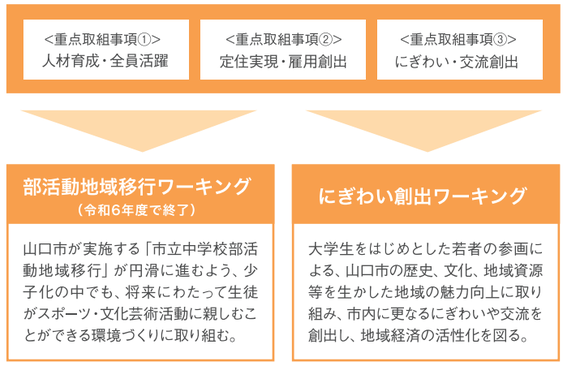
やまぐち地域共創プラットフォーム

令和４年11月に山口市（公）、山口商工会議所（産）、山口銀行山口支店（金）、山口県立大学・山口学芸大学・山口大学（学）で構成する「やまぐち地域共創プラットフォーム」を設立しました。

プラットフォームでは、山口市の現状や課題、各会員団体が掲げる将来計画の方向性を踏まえ、山口市の人口減少や少子高齢化の進展、人生100年時代が到来する中において、一人ひとりが楽しく、幸せを感じ、それらを支える環境が整っているまち「Well-being あふれる山口市」を目指し、①人材育成・全員活躍、②定住実現・雇用創出、③にぎわい・交流創出の３点を本プラットフォームの重点取組事項として位置づけました。その重点取組事項について、具体的に取り組むために「部活動地域移行ワーキング」及び「にぎわい創出ワーキング」を設置しました。

「部活動地域移行ワーキング」では、中学校の課外部活動の地域移行に向けて、学生へ地域の指導者としての参画を促す手順を検討しています（ワーキングは令和６年度で終了し、令和７年度からは、山口市の検討組織が各学校・機関と個別に調整します）。「にぎわい創出ワーキング」では、「レノファ山口応援プロジェクト」及び「クリスマスマーケット」などを企画・実施し、市内３大学の学生を中心ににぎわい創出アイデアを提案し、そのアイデアの実現を図ることで、大学生を起点とした新たな賑わいの創出やシビックプライドの醸成を図っています。

＜プラットフォームの取組＞



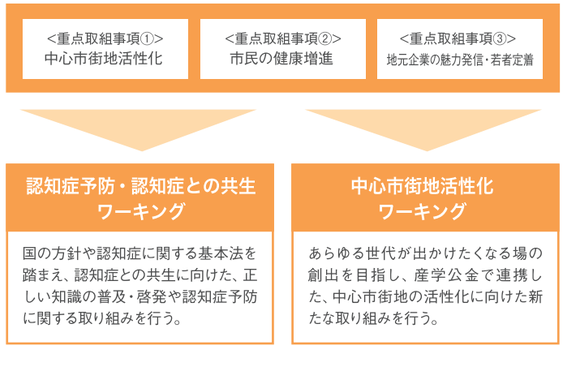
＜クリスマスマーケット（R6.12.1 開催）の様子＞

うべ・未来共創プラットフォーム

宇部市が掲げる「共存同栄・協同一致」の理念の下、令和４年11月に宇部市（公）、宇部商工会議所（産）、山口銀行宇部支店（金）、宇部フロンティア大学・宇部工業高等専門学校・山口大学（学）で構成する「うべ・未来共創プラットフォーム」を立ち上げ、「ひとが輝き交流ひろがるわたしたちの宇部」の実現を目指し、①中心市街地活性化、②市民の健康増進、③地元企業の魅力発信・若者定着の３点を本プラットフォームの重点取組事項として位置づけました。

その重点取組事項を推進するために「認知症予防・認知症との共生ワーキング」及び「中心市街地活性化ワーキング」を設置しました。「認知症予防・認知症の共生ワーキング」では、幅広い層へ認知症に関する正しい知識を持ってもらうため、「認知症を知ろう展」を開催し、市民を対象とした啓発活動を行いました。「中心市街地活性化」については、若者（大学生）にどうやって中心市街地に来てもらうかという視点から公共交通機関の利用促進などについて、検討を進めています。

＜プラットフォームの取組＞



＜認知症を知ろう展（R6.2.11 開催）の様子＞

ダイバーシティ —DIVERSITY—

世界を感じるキャンパスで学ぶ

ダイバーシティとは、「多様性」を意味します。変化の激しい時代を
たくましく生きる学生たちを育むダイバーシティ・キャンパスを創造します。

ダイバーシティ・キャンパスの実現に向けて

山口大学では、多様な価値観が共存する環境の実現を目指し、留学生が安全かつ安心して学べる環境の構築に取り組むとともに、海外オフィスを活用した広報活動の強化や海外同窓会の組織化を積極的に推進しています。さらに、留学支援体制を充実させるほか、英語による授業や、多様な留学プログラムを提供することで、様々な国籍、文化を持つ留学生の受け入れを促進しています。

安心して学べる環境

2016年7月から留学生危機管理サービスに加入しており、派遣学生や受け入れ学生全員がこのサービスを利用しています。このサービスでは、24時間365日対応のコールセンターによる派遣学生の安否確認や医療機関対応、受診時の通訳サービスが提供されています。

また、受け入れ学生に対しては、留学生アドバイザーや学生による留学生サポーターを中心に学内外でサポートを行っており、その一環として「病院指さし英会話カード」が生まれました。

さらに、学食でのハラルフードの提供や文化交流用の部屋の整備など、多様な文化に配慮した環境作りも進めています。

留学生に対する英語プログラムの実施

来日時に日本語が話せない留学生でも安心して学べるよう、英語で受講可能な科目を多数設けています。これにより、留学生は日本語を習得していなくても、専門的な学びを深めることができます。さらに、英語での学術支援や相談サービスの充実を図ることで、留学生が言語の壁を感じることなく学業に専念できる体制を整えています。これらの取り組みは、より多様な学生を惹きつけるだけでなく、山口大学内での国際的な視点の共有や多文化共生の促進にも寄与しています。

大学の世界展開力強化事業（アフリカ）の採択による、アフリカからの留学生の増加

2020年度に文部科学省の世界展開力強化事業に採択され、アフリカ地域との連携を強化しています。この事業を通じて、ケニア、ナイロビ大学との教員・学生の相互交流を実施しており、これまでに多くの派遣、受け入れを行ってきました。学内では「アフリカフェア」や「国際協力トークショー」を定期的に開催することで、学生や教職員にアフリカ地域への興味関心を喚起しています。また、全学対象の「課題解決力開発ワークショップ」を実施することで、アフリカに関する幅広い知識と課題解決力を養う機会を提供してきました。このような活動を通じて、近年、アフリカ地域の優秀な人材が山口大学で学ぶ機会が増え、学内の多様性が一層向上しています。

JICA事業による多様な留学生の受け入れ

JICA（国際協力機構）との連携も継続し、途上国からの留学生を積極的に受け入れています。この取り組みは、グローバルな視点を持つ人材を育成することを目的としており、多様な文化背景を持つ学生同士が交流し合う環境を提供しています。JICA事業を通じて来日する留学生には、特別な研修プログラムや専門的な学習機会が提供され、彼らの母国での課題解決に寄与するスキルの習得を支援しています。

また、学内外での交流イベントや地域住民との連携活動を通じて、多文化共生の理解を深める機会を設けています。

JICA国別研修の様子

海外オフィスを活用した連携

海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流を推進し、本学の情報発信を目的として、6か国・地域に国際連携オフィスを設置し、現地の優秀な学生の獲得に向けた広報活動や、本学派遣学生の留学支援を行っています。また、卒業生とのネットワーク強化や本学への派遣および海外広報機会の創出・充実を目的として、海外同窓会をこれまでに9支部設立しており、近年では2023年度にインドネシアとマレーシア、2024年度にタイで同窓会が開催され、卒業生とのつながりをさらに深めています。

〈国際連携オフィス〉

タイ同窓会の様子

ひと・まちを起点に新たな価値を創出する文系DX人材を養成

2025年4月、山口大学に「ひと・まち未来共創学環」が誕生しました。学部相当の新設は国際総合科学部以来10年ぶり、10番目となります。ウェルビーイングの視点からひとや地域の未来を切り拓く新たな価値創出にチャレンジする人材を養成する本学環の取り組みをご紹介します。

複雑化する地域課題の解決に向けて

地域には、人口減少や少子高齢化、過疎化による人手不足、中心市街地の空洞化、人と人とのつながり（コミュニティ）の希薄化など、様々な課題が山積しています。そうした地域の課題を、AIやIoTなどのデジタル技術を活用して直接的に解決しようとする取り組みは多く見られますが、本来はこれらの技術を適用する前に、地域課題解決へのアプローチの仕方を適切に見定める必要があります。その際に有効となるのが、心の豊かさを含む一人ひとりの多様な幸せや、社会全体の豊かさを意味する「ウェルビーイング」という考え方です。また、将来の予測がつきにくい変化の激しい時代において、複雑化する地域の課題を、単独の学問分野の知識だけで解決することは困難です。こうした背景を受けて、山口大学が新たに設置するのが「ひと・まち未来共創学環」です。

総合大学の強みを活かした分野横断・文理融合的な学び

「学環」とは、大学設置基準等に定められている「学部等連係課程制度」を活用した、学部に相当する新しい教育課程です。学部と同じように、卒業時には「学士（学術）」の学位が授与されます。

ひと・まち未来共創学環の最大の特徴は、本学が有する教育研究資源を最大限に活用し、文系や理系の枠組みを超えた、複数学部の専門科目を履修できる点です。

学環長の北西功一教授は、本学環の特徴を次のように語ります。

「教育学部、経済学部、理学部、国際総合科学部、人文学部、医学部といった既存学部、情報・データ科学教育センターや教育・学生支援機構の緊密な連携のもと、様々な分野を専門とする教員が集まり、分野横断・文理融合的な教育を行います。これは、総合大学である山口大学ならではの強みといえます」

また、山口大学は、山口県立大学、山口学芸大学と共に、文部科学省の地域活性化人材育成事業（SPARC事業）に採択され、3大学が大学等連携推進法人を設立し、連携・協力して教育プログラムの提供を行いながら、文系DX人材の育成に力を入れています。国公私立大学協働による文系DX人材育成は、全国初の取り組みとして注目されています。

ひとと地域のウェルビーイングに貢献する

ひと・まち未来共創学環のコンセプトは、「ひとや地域のウェルビーイングに貢献する文系DX人材の育成」です。ウェルビーイングとは「より良い状態」であることを意味します。ひとにとってのウェルビーイングとは、一人ひとりが身体的・精神的・社会的・経済的に満たされている状態のこと。地域におけるウェルビーイングとは、買い物のしやすさや交通の利便性、犯罪の少なさ、医療の充実、地域コミュニティの経済的・社会的な活性化などを含めた、人々が暮らしやすい地域社会のことを指します。

単にデータを分析するだけで、地域の課題解決につながるとは限りません。北西学環長は、「まずは地域にどんな課題があるのかを見つけるために、人々の生の声を聞くことも重要です。そこに数字化されたものを組み合わせることで、地域課題の発見・解決につなげていきたい」と強調します。

理論と実践の往還により汎用性の高い実践力を養う

本学環の全員の学生が共通して学ぶのは、「心理学・行動科学」「経済学・経営学、社会学」「データサイエンス、デジタル技術」の3つの分野です。これらの基礎知識を身に付けた後、「ひと・まち共創心理系プログラム」と「ひと・まち共創社会系プログラム」に分かれ、それぞれの専門的な科目を中心に学びます。さらに、理論と実践を交互に繰り返しながら実践力を養う「DXによる地域課題解決（PBL）」を取り入れて、新たな価値創出につなげることができる「文系DX人材」の育成を目指します。また、国家資格である「公認心理師」の受験資格を得るために必要な学部のカリキュラムにも対応しています。

北西学環長は「AIやデジタルは課題解決のためのツール。学んだことを現実社会の適切な場面でどう活用するかが重要です。“ひとや地域のウェルビーイングに貢献する文系DX人材を育成する”というミッションを明確に持ち、達成のために理論と実践の往還を続けたい」と意気込みを語ります。

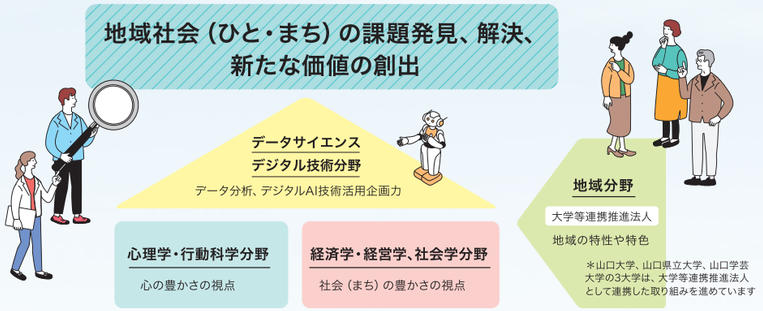
ひとや地域の未来をより良くする有望な人材を育成

本学環での学びを通じて身に付くのは、「人間の心理・行動に対する深い理解力」「ビジネスの視点を含む地域社会の仕組み等に対する理解力」「デジタル技術・AI技術を活かした提案力」「地域・コミュニティに対する分析力」「他者と協働する力」など、多様なフィールドでも活躍できる実践的かつ汎用性の高いスキルです。

卒業生はさまざまな分野での活躍が期待されています。民間企業であれば、事業計画やマーケティング、人材戦略、働き方改革の推進など。官公庁であれば、統計分析やそれに基づく施策立案、心理専門職など。そのほかにも、NPO法人での地域活性化活動、大学院への進学など、多様な道が開けています。

今後の展望について北西学環長はこう語ります。

「地域の皆様のご協力のもと、より豊かな学びに発展させ、地域や日本の未来をより良くする有望な人材を育てていきたいと考えています。最終的な目的は、ひとや地域のウェルビーイングです。地域の皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます」



山口学芸大学とオンラインで接続して行われている授業の様子。データサイエンスの概要、その基礎となるデータリテラシーを学びます。

ひと・まち未来共創学環 学環長
国際総合科学部 教授
北西 功一

心理学×データサイエンスで地域の子育て支援の課題を発見 01

心理学を専門とする春日由美教授は、地域の子育て支援拠点の日誌を対象にAIを用いた分析を行い、支援拠点を利用する人々に対するスタッフの意識の現状を明らかにし、新たな課題の発見につながる研究を行いました。

地域子育て支援拠点の日常をAIで分析

地域の子育て支援拠点と交流を持ち、長年親子の心理支援に携わってきた春日教授は、ある子育て支援拠点の14年間にわたる活動日誌における「気づき」というスタッフ間の情報共有を目的とした記述項目に着目し、AIを活用した分析を行い、支援拠点を利用する人々をスタッフがどのように捉えているのか、また、支援拠点としての機能や支援内容の現状について検討しました。

主観を取り払い、新たな視点を得る

分析の結果、「子」という言葉を含む記述はポジティブな言葉とつながっている表現が多く、「ママ」という言葉を含む記述はポジティブ・ネガティブ（大変・心配など）の両方の言葉とつながっている表現が多いことから、スタッフは子どもの存在を肯定的に捉え、母親とは育児の大変さや心配する気持ちも共有しており、支援拠点としての機能をきちんと果たしていることがうかがえます。

一方で、これまで気づかなかった特徴も見えてきました。「父親」という言葉を含む記述は「母親」という言葉とセットで記述されることが多いため、スタッフは父親を一個人ではなく、母親とセットの存在として見ている可能性があることがわかりました。また、休日では「母親」も「父親」も利用者として来訪しているにも関わらず、「父親」という言葉の記述の方が多く登場することから、利用者への関心に偏りがある可能性も指摘されます。こうしたことから、スタッフのなかに「子育ては母親が行うもので、父親はその次」「父親が子育てを行うことは特別」という潜在的な意識があることが推測され、利用者に平等に関心を払い、支援していく必要性が見えてきます。

春日教授は次のように振り返ります。

「今回用いたのは、AIを活用して膨大なテキストデータから有用な情報を抽出する技術です。AIの活用により、研究者の主観を取り払った分析が可能になるため、より良い未来につながる新たな視点を得ることができました」

AI活用で広がる心理学の新たな可能性

今後の展望について春日教授はこう語ります。

「心理学は人と人が関わるあらゆる場面で活用できる学問です。心理学にAIを組み込むことで、地域の様々な課題を解決する手がかりを得る可能性が広がります。ただし、分析結果から何がいえるのかを考察するためには、ベースとして心理学の専門知識が必要不可欠です。子育て支援の場面に限らず、地域に眠っているデータは大量にあるはず。研究の余地はまだたくさんあると考えています」

教育学部 教授
春日 由美

現場重視・課題解決志向のFPBLで新たな価値創造と人財育成を両立 02

徹底した現場主義のもと、人間環境学・環境心理学を軸足に、農村/都市計画学や合意形成学など、専門分野を拡げてきた杉野弘明講師。学生と共に地域に赴き、FPBLという手法を用いた教育と研究が相互に共鳴しあう活動に取り組んでいます。

現場のニーズを外さないFPBLを実践

地域課題が複雑化し、社会変化が激しく将来予測が困難な現代においては、研究者が直接社会と関わり、研究のプロセスに現場の声を取り入れ、その成果について実用化/実装化の可能性が見えてきた段階ですぐに社会にフィードバックする。こうした社会に開かれた研究方法が必要とされており、その実現に有効な手法の一つがFPBL（Field and Project-based Learning）です。

FPBLは、プロジェクト志向型学習（PBL）に、現場重視（Field-based）の要素を加えたもので、地域住民や企業、自治体など多様な人々と関わりながら課題を見つけ、議論し、共に汗をかきながら課題解決に取り組む、経験的な学びのスタイルです。杉野講師は、「現場と大学が二人三脚でFPBLに取り組むことで、現場のニーズを外さない即時性・継続性を持つ研究が可能になる」と語ります。また、多様な人材が集まるグループワークの中でトライ＆エラーを繰り返すことで、学生の総合的な課題“運用”能力も育まれるといいます。

未発見のローカルデータに光を当てる

FPBLの事例として、農村におけるIoT情報管理システムを取り上げます。

農業では気温や湿度、雨量などの気象データが不可欠ですが、公開されているデータの多くは地域の代表的な観測地点におけるものであるため、山間部のほ場などでは実際の数値とのズレが発生してしまいます。そこで、杉野講師は、農家の方々と協力し、山間部のほ場に小型のIoT気象計を設置し、得られたデータを見やすい形に加工した上で、携帯端末に送る仕組みを開発しました。これにより、収穫時期の微調整が可能となり、作物の品質向上と安定が見込めるようになりました。

「農業には、いつ水をやるか、いつ収穫するかなど、状況に応じた判断が求められます。これは篤農家の方々が持つ貴重な技術と知見であり、その暗黙知をIoT機器やAIなどの先端技術を活用してサポートし、また形式知化することは、日本の農業にとって大きなアドバンテージになります。各地に分散する細かなデータを集めれば、例えば不作の原因究明や予測も可能となり、新規就農者の参入も後押しできるはずです」

地域に開かれた大学として

農村の事例にもあるように、特に地方部にはまだ光を当てられておらず、整備もされていない重要なローカルデータがたくさん眠っています。杉野講師は、自然科学や社会科学の垣根を越えて現場の課題解決に必要な知見を組み合わせることで、地域に眠るデータを発見・整備し、先端技術と結びつけて新たな価値を共創できると考えています。「現場に赴き、多分野の知見を融合しながらプロジェクトベースで研究を進める度に、大学の外に広がる地域とそこにある課題は教員や学生の研究や学びの資源であり、また大学という存在は地域の皆さんにとって地域を盛り上げるための資源でもあると実感します。地域の皆様も、本学環の設立をきっかけにぜひ本学に足を運んでいただき、地域のお困りごとや課題をご相談いただければと思います」

国際総合科学部 講師
杉野 弘明

山口大学 Topics&News

01 山口レインボープライド2024に参加しました

令和6年6月29日（土）に山口市中央公園で開催された「山口レインボープライド2024」へ、山口大学ダイバーシティ推進室は「ilma（イルマ）」（どんな性的指向や性自認でも、あたりまえに安心して生活できる環境づくりを目指す学生団体）と共同でブースを出展し、パネル展示やかき氷販売を行いました。

このイベントは、性的マイノリティの方に対する差別や偏見を無くし、正しい理解を広めるために実施されたもので、近年全国各地で開かれており、山口県では令和5年度に続いて2回目の開催となりました。当日、来場者は同時に開催された「地元のチカラまつり」とともに、音楽やトークショーなどのステージ企画や出展ブースのコーナーなどで楽しんでいました。また、午後からは「プライドパレード」が実施され、360人の参加者がプラカードやレインボーグッズなどを身に付けて市中パレードを行いました。

今回参加したことによって、山口大学が策定したSOGIガイドラインなど、性的指向と性自認を尊重するための取組・活動を多くの方に知ってもらうことができ、また、他の支援団体との交流を深めることができました。

02 玉田耕治細胞デザイン医科学研究所長らが令和6年度全国発明表彰を受賞しました

令和6年7月11日（木）、公益社団法人発明協会主催による令和6年度全国発明表彰にて、細胞デザイン医科学研究所所長の玉田耕治教授、所員の佐古田幸美准教授と安達圭志講師が、「免疫機能制御因子を発現する免疫担当細胞の発明」において「未来創造発明奨励賞」を受賞しました。

玉田教授らの発明は、がん治療に用いる「PRIME CAR-T細胞」に関するもので、従来の細胞では血液がんに対しては高い有効性を示してきた一方で、固形がんに対する有効性を示すことが難しいという課題の克服につながることから、今回の受賞に至りました。

また、今回の受賞の栄誉を称え、谷澤幸生学長に「未来創造発明貢献賞」が併せて贈られました。さらに、文部科学省大学知的財産本部整備事業により特許庁審判部門長から山口大学教授・知的財産本部長として就任して以来、20年にわたり本学の知的財産活動・産学連携活動に尽力し、ひいては本学が全国の大学知財のモデル校として認識されるまでに貢献された佐田洋一郎教授（特命）も「発明奨励功労賞」を受賞し、本学関係者では併せて3件の受賞となりました。

03 人文学部の尾崎千佳教授が令和6年度第78回芭蕉祭文部科学大臣賞を受賞しました

令和6年10月12日（土）に三重県伊賀市で開催された第78回芭蕉祭（主催：伊賀市、芭蕉翁顕彰会）において、俳文学（連歌、俳諧、俳句など）の優れた研究書に送られる文部科学大臣賞が、人文学部 尾崎千佳教授の著書「西山宗因の研究」（八木書店刊）に贈られました。この賞は令和５年４月１日から令和６年３月31日までに刊行された「連歌・俳諧・俳句」に係る著作を対象に選考されるものです。

選考委員からは「西山宗因全集に編者として関わった著者による徹底した資料の収集とその客観的分析であり、宗因伝記研究の金字塔」と高く評価されました。西山宗因（1605～82年）は、肥後八代城主の家臣を務め、主家の肥後加藤家の改易で浪人となり、その後、連歌師になった人物で、60代以降は俳諧師としても活躍し、芭蕉や西鶴に多大な影響を与えました。

また、令和6年10月30日（水）に尾崎教授から谷澤幸生学長へ今回の受賞について報告が行われ、谷澤学長から、「長年の研究成果をまとめた著書は、山口大学人文学部出版助成事業第1号に相応しく、人文学部の他の研究もこれに続いて欲しい」との期待の言葉がかけられました。

04 教育学部学生が首里城復興事業の一つである「向拝奥の彫刻物」の製作に参加しました

沖縄県では、令和元年10月の火災により焼失した首里城の復元に向けた取り組みとして、令和2年度より首里城復興事業を行っています。この事業の一つである「首里城復興基本計画推進事業による向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）等の製作」を山口大学は受託し、教育学部上原一明教授の下で令和5年から製作作業を進めてきました。約2年間の期間を経て、令和7年1月に製作が完了し、山口大学から国へ「向拝奥の彫刻物」の引き渡しが行われました。なお、引き渡し後は彩色が施され、令和8年秋に完成となる予定です。

彫刻物の粘土原型製作に製作補助として参加した教育学部美術教育選修4年生の赤嶺真奈嘉さんは、「沖縄県出身として今回の首里城復興に少しでも関わることができ、とても光栄でした。木彫の作業では、木目の向きに気をつけながら彫るのが難しく、上原先生の指導のもと試行錯誤しながら行いました」と作業を振り返っていました。

学生達が製作補助した「向拝奥の彫刻物」の試し彫りは、国立首里城公園内資料館に展示される予定です。

05 山口市のニューヨーク・タイムズ選出による経済効果を算出し、「山口観光経済シンポジウム」を開催しました

令和7年2月12日（水）に山口大学 吉田キャンパス大学会館大ホールにて、「山口観光経済シンポジウムーNYタイムズによる山口市選出から1年」（主催：山口大学経済学部、共催：財務省中国財務局山口財務事務所）が開催され、市内観光業や行政、経済関係者、一般から計142人が参加しました。

経済学部加藤真也准教授の研究室は、山口市がニューヨーク・タイムズ（NYT）の「2024年に行くべき52カ所」の3カ所目に選出されたことによる山口県全体への経済効果について、令和6年5月時点では令和6年の1年間で見込まれる経済効果をおよそ90億円と算出していましたが、その後、湯田温泉街やJR新山口駅などで消費単価のアンケートをやり直すなど、NYTの効果を試算し直し、当初の見込みより36億円ほど低い54億円であったとの推計結果を発表しました。

本シンポジウムのパネルディスカッションにも加藤准教授の研究室の学生が参加し、観光地としての魅力を高めるための課題や改善点について議論を行い、山口市や山口県の今後の観光のあるべき姿について参加者と共有することができました。

06 大学院創成科学研究科の冨士彩紗さんが日本学術振興会「育志賞」を受賞しました

令和7年3月6日（木）、山口大学大学院創成科学研究科ライフサイエンス系専攻博士後期課程3年の冨士彩紗さんが、第15回（令和6（2024）年度）日本学術振興会育志賞を受賞しました。この賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に創設されたものです。

冨士さんは、本学理学部生物・化学科（現 生物学科）に入学後、大学院創成科学研究科修士課程、同博士課程へ進学し、植物の光合成に必須な気孔開口の分子機構の解明に一貫して取り組んできました。この研究過程において、気孔開口の駆動力形成を担う細胞膜H+-ATPaseが、光に応答して自己阻害領域内の2箇所のリン酸化により活性化することを発見しました。

冨士さんは、生化学や分子生物学、分子遺伝学など、多角的アプローチによる研究に粘り強く取り組み、長年に渡り不明であった気孔開口の駆動力形成の仕組みを解き明かし、本領域の研究を大きく前進させました。我が国の将来の学術研究を先導する研究者として成長することが期待されます。

Financial data Governance

―財務データ・ガバナンス―

損益計算書

国立大学法人の損益計算書は、教育・研究活動等の運営状況を明確にするための「活動成績表」です。授業料や国からの運営費交付金などの収入と、教育・研究・診療等にかかった費用を記載しており、1年間の活動状況がわかります。

国立大学法人の損益計算書は、単なる「収支報告」とは異なります。教育・研究という公共性の高い活動において、授業料や国からの運営費交付金といった貴重な財源がどのように使われ、どのような成果に繋がったかを示し、活動の透明性を担保するものです。企業の損益計算書が利益追求を示す一方、国立大学法人のそれは、社会への説明責任を果たし、皆さんの信頼を得て、より良い教育・研究環境のために未来へ投資する道筋を示しています。

2023年度 損益計算書 ハイライト

人件費高騰及び物価高により、4期ぶりの赤字

山口大学の事業規模の約6割を占める附属病院は、収益が増加したものの、物価高騰や改修工事で費用が大きく増加しました。これに加え大学全体の人件費を増額したこともあり、4期ぶりの赤字となりました。

費用

教育研究活動等に要した費用

545億円

31億円↑

収益

教育研究活動等のための源泉　528億円　118億円↓

損失

経営課題への対応で生じた損失　16億円　150億円↓

国立大学法人会計基準の改定に伴う2022年度限りの臨時利益が無くなったことにより、前年度比で大幅に収益が減少しました。

前年比150億円の減益！

2023年度は前年度比150億円の減益となり、山口大学の経営に懸念を抱かれるかもしれません。しかし、このうち131億円は、実質的な経営悪化ではなく、会計基準の改定により、2022年度に計上していた臨時利益（返済不要な負債の一部）が無くなったためです。残り19億円は、物価高騰や病棟改修工事による費用増加が要因です。これらの状況を乗り越え、経営の効率化を徹底し、早期の黒字復帰を目指してまいりますので、引き続きのご理解とご支援をお願いいたします。

損益計算書

費用

単位（百万円）

	2022年度	2023年度	増減
経常費用合計	51,405	53,834	2,429
業務費	50,056	52,732	2,676
教育経費	2,398	2,356	△ 42
研究経費	1,608	1,525	△ 82
診療経費	19,081	21,795	2,714
教育研究支援経費	940	794	△ 146
受託研究費等	1,608	1,524	△ 84
人件費	24,417	24,736	318
一般管理費	1,207	920	△ 286
その他	142	181	39
臨時損失	15	732	717
費用合計	51,420	54,566	3,146

収益

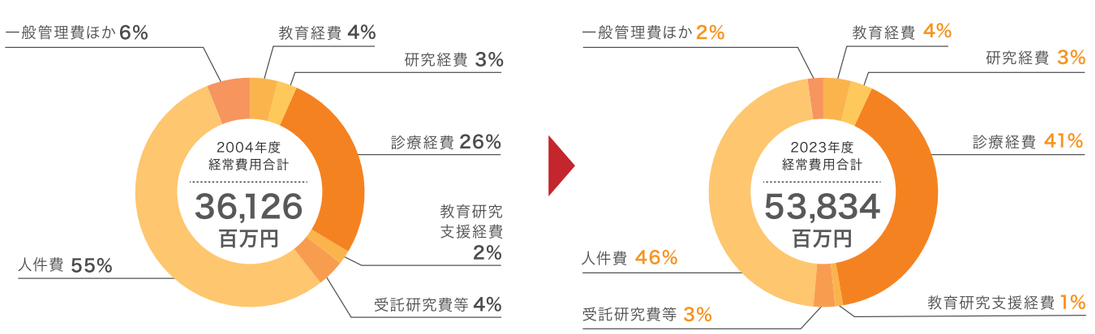
単位（百万円）

	2022年度	2023年度	増減
経常収益合計	51,560	52,809	1,248
運営費交付金収益	11,957	12,131	173
学生納付金収益	6,120	6,064	△ 55
附属病院収益	26,648	28,478	1,830
受託研究等収益	1,701	1,738	37
受託研究収益	870	934	63
共同研究収益	430	440	10
受託事業収益	399	364	△ 35
寄附金収益	870	908	38
施設費収益	148	257	108
補助金等収益	2,960	1,955	△ 1,004
その他	1,153	1,274	121
臨時利益	13,208	87	△ 13,120
収益合計	64,768	52,896	△ 11,872

※単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。

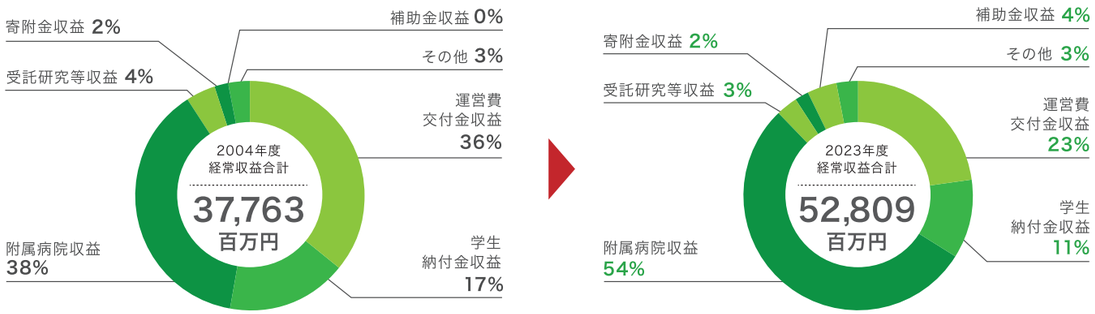
法人化後の経常費用の変化（2004→2023）

一般管理費の縮減を図り、効率的な法人運営に努めました。



法人化後の経常収益の変化（2004→2023）

附属病院の収益拡大に伴い、病院経営が法人の財務構造に大きな影響を及ぼします。



貸借対照表

国立大学法人の貸借対照表は、年度末における財政状態を示す「財産目録」です。建物や設備、現金といった資産と、借入金などの負債、そしてそれらを除いた自己資金（純資産）を一覧で示し、法人全体の財政基盤が分かります。

2023年度 貸借対照表 ハイライト

病棟改修工事により、資産・負債とも増加

医学部附属病院の改修工事を借入金で行ったため、建物と負債が大きく増えました。一方で、中長期的な財政基盤を強化し、将来の教育・研究・診療の発展につなげるため、本学の資金を安全かつ効率的に運用しています。

資産

建物等	816億円	18億円↑
株式等	31億円	6.4億円↑
現預金等	184億円	16億円↓
資産合計	1,032億円	8.6億円↑

負債

返済の必要のない債務	84億円	0.5億円↑
未払金等	413億円	22億円↑
負債合計	491億円	22億円↑

純資産

純資産合計	541億円	13億円↓

貸借対照表

資産

単位（百万円）

	2023年度	前年度比
資産の部	103,265	863
固定資産	84,818	2,511
土地	15,157	0
建物・構築物	44,742	3,600
機械備品等	9,808	470
図書	7,407	7
建設仮勘定	4,137	△ 2,176
その他	3,565	610
流動資産	18,446	△ 1,648
現金・預金	11,536	△ 1,203
未収金	6,315	△ 498
その他	594	54

負債

単位（百万円）

	2023年度	前年度比
負債の部	49,136	2,251
固定負債	30,993	2,986
長期繰延補助金等	1,196	△ 237
長期借入金	26,345	3,163
長期未払金	2,800	10
その他	575	52
流動負債	18,142	△ 735
寄附金債務	4,379	△ 138
借入金	1,467	231
未払金	9,430	△ 1,262
その他	2,864	433

純資産

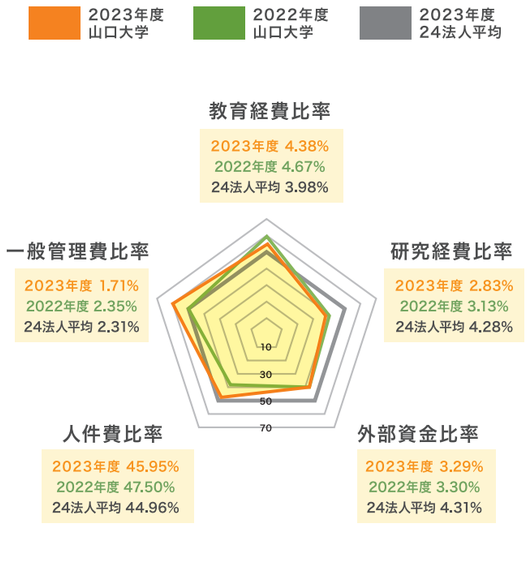
単位（百万円）

	2023年度	前年度比
純資産の部	54,128	△ 1,387
資本金	16,222	0
資本剰余金	10,168	982
利益剰余金	27,737	△ 2,370
（うち当期未処理損失）	△ 1,668	△ 15,072

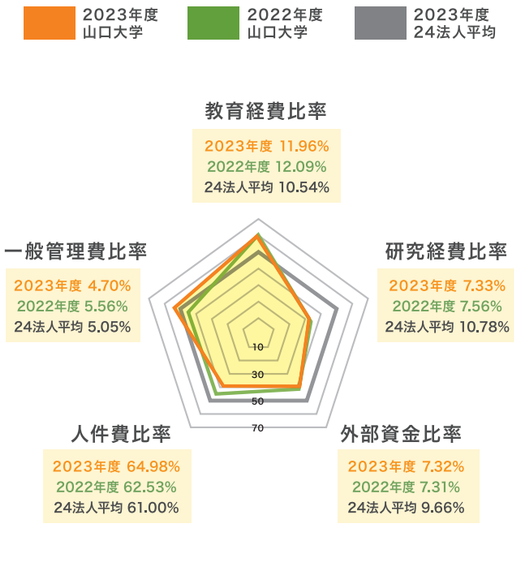
財務指標

山口大学の経営状況を、同系同規模の24国立大学法人の平均を50とする偏差値で評価しました。その結果、教育経費率や人件費比率が高い一方で、研究経費比率や外部資金比率が低いという特徴が見られます。

財務指標（病院セグメント含む）



財務指標（病院セグメント除く）



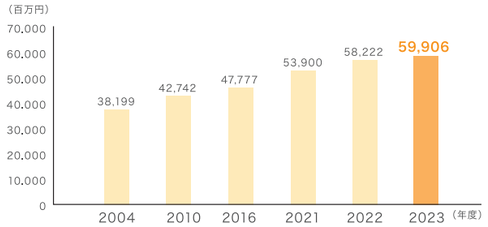
財務指標		指標の内容		評価
活動性・収益性	教育経費比率	教育経費／経常費用	経常費用のうち教育経費の占める割合はどうか。大学本来の活動のうち、教育活動に充当される直接費の割合はどうか。	一般的に高いほどよい
	研究経費比率	研究経費／経常費用	経常費用のうち研究経費の占める割合はどうか。大学本来の活動のうち、研究活動に充当される直接費の割合はどうか。	一般的に高いほどよい
発展性・成長性	外部資金比率	（受託研究収益＋共同研究収益＋受託事業収益）／経常収益	経常収益のうち外部から獲得した資金（寄附金を除く）の占める割合はどうか。	一般的に高いほどよい
効率性	人件費比率	人件費／経常費用	経常費用のうち人件費の占める割合はどうか。人件費を抑え、学生向けの教育サービスの質的向上や必要な研究経費が十分確保されているか。	一般的に低いほどよい
	一般管理費比率	一般管理費／経常費用	経常費用と一般管理費との割合はどうか。管理経費を抑え、効率よく法人経営されているか。	一般的に低いほどよい

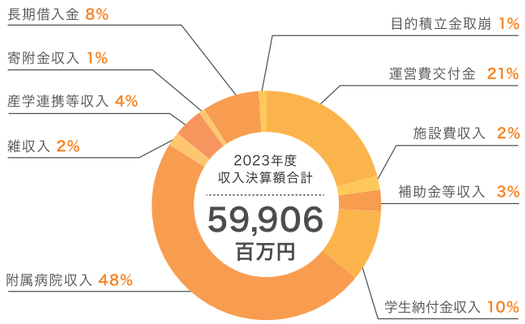
収入決算額の推移

山口大学の収入（現金ベース）について、法人化当初（2004年度）から2023年度までの推移をグラフにしました。

総収入

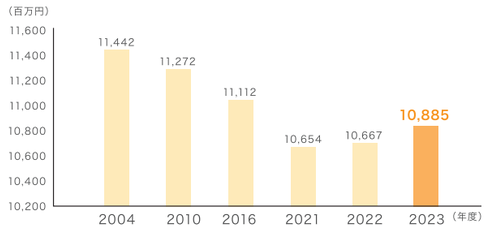
◇決算報告書の総収入





収入の内訳

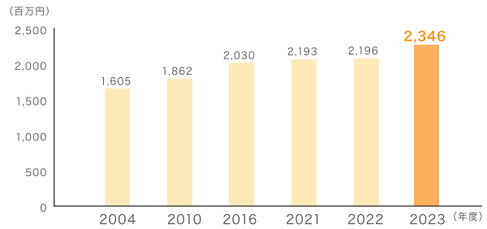
◇運営費交付金収入



POINT

運営費交付金収入は、国の削減方針により、法人化当初に比べて大きく減少しています。近年は減少傾向が下げ止まり、特に2025年度は設備費の獲得に尽力した結果、前年度比で増加しました。

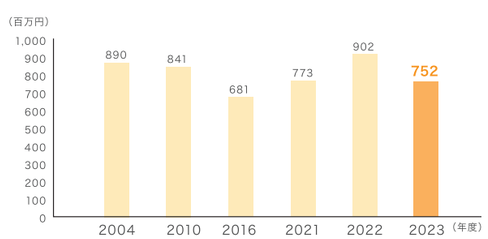
◇産学連携等収入（補助金に係る間接経費含む）



POINT

産学連携機能の強化は、収入の増加という形で成果を上げています。一方で、研究経費および外部資金が他大学と比べて少ないことが本法人の課題です。このため、今後も外部資金の獲得に注力し、研究の一層の推進と経営基盤の強化を目指します。

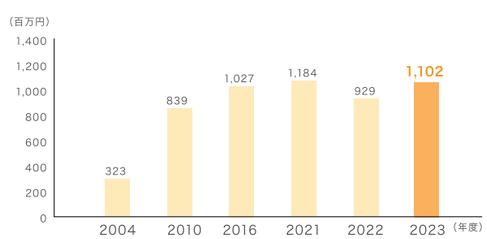
◇寄付金収入



POINT

2015年に創基200周年を記念して山口大学基金を創設するなど、近年は寄附金獲得に注力しています。皆様からの寄附金は、人材育成や研究活動に活用し、その成果を社会へ還元することで、地域・日本の発展に貢献できるよう、引き続き獲得に努めてまいります。

◇その他の収入



POINT

動物医療センターの運営、土地・建物の貸付、特許権の活用などにより収入を得ています。教育・研究活動の一層の充実を図るため、財源の多角化と収入増加に、今後も積極的に取り組んでまいります。

その他財務トピックス

ステークホルダーの皆様からご支援いただく様々な資金のうち、「授業料」、「間接経費」、「施設利用料」をピックアップし、その使途等をご紹介します。

TOPIC 1 学生1人当たりの教育活動に要する経費

学生の年間授業料は約53万円ですが、教員人件費、図書館費、教育に必要な物件費などを合わせると、学生1人当たりの教育活動経費は約93万円となります。授業料で賄いきれない差額分は、主に運営費交付金や寄附金、補助金などで補填しています。

コスト内訳

単位（百万円）

	2023年度
教育経費	2,034
教育研究支援経費	476
教員人件費	4,726
職員人件費	2,075
合計	9,346

教育経費の主な使途

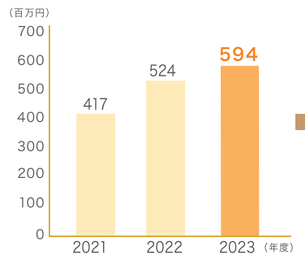
- 授業料免除、給付型奨学金
- 教育用施設・設備の維持管理費
- 授業用の教材・試薬等
- 講義室等の光熱水費

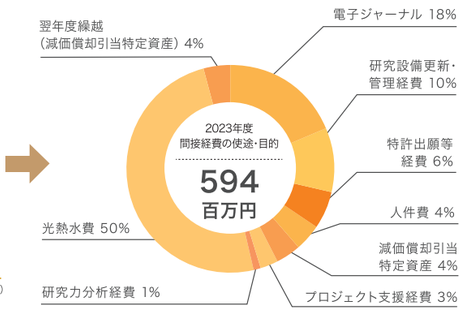
2023年度
学生1人当たりの
教育コスト
約93.3万円/年
［参考］年間授業料
約53.6万円

TOPIC 2 間接経費とは？

間接経費とは、研究に必要な費用（直接経費）とは別に、研究室の電気代や設備の維持費、事務員の人件費など、研究活動を支える大学全体の運営費用のことで、国や共同研究企業に一定比率をご負担いただいています。これにより、より良い研究環境の整備や大学機能の向上が図られています。

◇間接経費受入額の推移

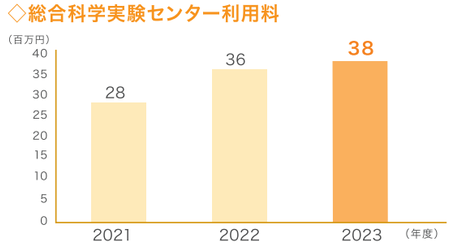




TOPIC 3 資産の有効活用

山口大学では、保有資産を有効活用し、財源の多角化を進めることで、安定した大学運営を目指しています。例えば、総合科学実験センターの研究用機器を学外企業にも開放し、収入増加を図るとともに、産学連携の強化にも繋げています。

◇総合科学実験センター利用料



山口大学の財務情報について
さらに詳しくお知りになりたい方は
WEBサイトをご覧ください

財務に関する情報

入札関連情報

山口大学の内部統制体制について

山口大学では、業務方法書に規定した「内部統制に関する基本事項」に基づき、「内部統制システム」を運用しています。

○実施体制

・モニタリングの実施

山口大学では、各部局における自己点検（1次モニタリング）、総括担当部署における各部局へのチェックリスト等での点検・ヒアリング（2次モニタリング）及び内部監査室が実施する内部監査（3次モニタリング）の3つのモニタリングを実施しています。

・モニタリング結果等の情報共有

業務方法書に記載するリスク管理等の内部統制に関する事項について、協議及び情報を共有するために、学長、理事、特命理事及び各キャンパスの事務部長（総務企画部長・医学部事務部長・工学部事務部長）で構成する内部統制会議を毎月開催しています。

モニタリングの結果は、内部統制会議に報告され、問題点があれば、要因の分析や改善策について協議を行い、その結果（検討状況・改善指示等）について部局長会議等を通じ学内全体で情報共有する体制を構築しています。

・監事監査の実施

山口大学では、組織業務に精通した常勤監事１名及び会計業務に精通した非常勤監事１名の２名体制で、本法人の業務及び会計について監事監査を行っています。

「国立大学法人山口大学監事監査規則」において、「監事は、役員会、経営協議会、教育研究評議会等の重要な会議に出席して意見を述べることができる」と規定しています。

前述の会議の他にも部局長会議や内部統制会議等に出席しており、これらの会議を通して、経営の健全性、内部統制の有効性・効率性、教育研究や社会貢献の状況等について、独立した立場から自由に意見を述べることで、本法人のガバナンスの一翼を担っています。

○「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況の確認

「国立大学法人ガバナンス・コード」は、国立大学が特性を踏まえた取り組みを実施し、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するとともに、経営の透明性を高め、自ら強靭なガバナンス体制を構築していくための基本原則で、令和元年度に一般社団法人国立大学協会が文部科学省、内閣府の協力を得て策定したものです。

山口大学では、中期計画において、学長のリーダーシップのもとで、「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況を自主的、継続的に確認・点検することで強靭なガバナンス体制を構築することとしており、内部統制会議において適合状況を確認し、自己点検・改善を行っています。

なお、本学の「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況については、ホームページで公表しています。

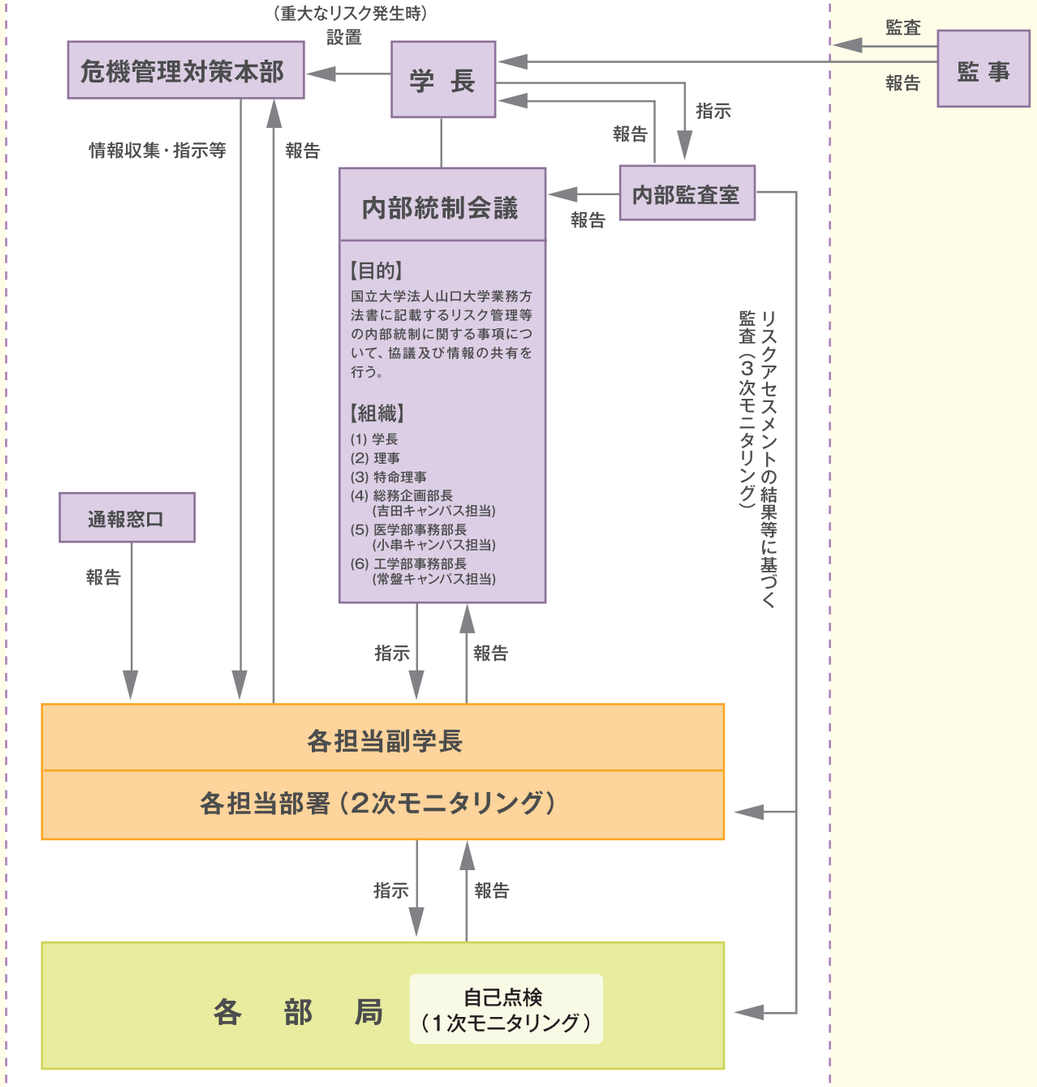
URL:https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/legal_public_information/governance_code/

○リスク低減への取組

内部監査室では、平成２６年度から、リスクアプローチ手法を用いて「影響度」「発生頻度・可能性」の２面から４段階でのリスクアセスメントを毎年度末に実施し、その結果を翌年度の内部監査計画に反映しています。令和6年度末のリスクアセスメントにおいては、大学の諸活動の安全性・健全性を保つためのリスクが高いと判断する73項目について再評価し、令和7年度の内部監査計画に反映しています。

以上のように、内部統制会議を中心としたPDCAサイクルや「国立大学ガバナンス・コード」への適合状況の確認等により、継続的に内部統制体制の実効性の確認と見直しを行い、法人業務の適正性の確保に努めています。

山口大学における 内部統制推進体制



山口大学基金
YAMAGUCHI UNIVERSITY FUND

新たな200年へ 未来の「長州ファイブ」が羽ばたきます

明日の日本を担う学生や若手研究者を支援し、社会の発展に貢献

山口大学は、財政状況が厳しい中、安定的な財務基盤を確立し大学としての使命を果たすため財源の多元化を進めており、寄附をその一つに位置付けています。卒業生、企業・団体、学生のご家族や地域の皆様、教職員等多くの皆様からいただいたご寄附により「山口大学基金」を創設し、「新たな日常」においても明日の日本を担う学生らが夢をあきらめることがないよう、また、若手研究者らが安心して研究に打ち込み、その成果により社会の発展に貢献できるよう、様々な修学・研究支援を行ってきました。

これまでお寄せいただいたご寄附は2万件を超え、支援した学生・研究者は4,000人にのぼり、支援内容は本学独自の給付型奨学金や、授業料支援、食料品支援など生活に困窮する学生への経済的支援のほか、学生のチャレンジ精神を後押しする海外留学や自主的活動への支援、博士後期課程学生を含む若手研究者への研究支援など多岐にわたっています。

寄附は山口大学にとって重要な財源の一つです。時代の変化や要請に応え常に進化し続ける山口大学として、構成員である学生・教員・職員が活力を発揮し、やりがい・働きがいを感じて活躍できる大学、地域や社会に貢献する大学であるために、今後も本学の寄附活動に取り組んで参ります。

支援実績（令和5年度）

支援人数・件数：653人・30件　　支援額：約5,135万円

七村奨学金（山口大学独自の返還を要しない給付型奨学金）　：27人 1,701万円

○1人当たり 63万円(7万円×9月、4年又は6年間)

学部学生 27人（経済学部3、理学部3、医学部医学科7、医学部保健学科4、工学部5、農学部1、共同獣医学部2、国際総合科学部2）

5期生7人（経済学部2、医学部保健学科3、工学部2）が令和6年3月に卒業

私費外国人留学生への奨学金（給付型）　：12人　648万円

○1人当たり 54万円（4.5万円×12月、1年間）

大学院生 12人（人文科学研究科1、経済学研究科4、医学系研究科1、創成科学研究科（工）4、東アジア研究科2）

経済的困窮学生に授業料を支援（返還不要）　：2人 54万円

○半期分授業料　上限 267,900円（修学年限期間中1回）　学部学生 2人：後期　2人（経済学部2）

海外留学経費の一部を支援　：183人 1,259万円

○海外留学経費支援（前期）

学部学生・大学院生 179人（人文学部5、教育学部11、経済学部60、理学部2、医学部6、工学部・創成科学研究科(工)32、農学部・創成科学研究科(農)16、共同獣医学部7、国際総合科学部40）

○IELTS・TOEFL支援　**学部学生 4人**（医学部1、国際総合科学部3）

大会等で優秀な成績を挙げた課外活動、団体への支援　：4団体　40万円

○1団体10万円

将棋部：第51回全日本学生将棋十傑戦 準優勝、第106回中四国学生将棋大会団体戦 優勝

吹奏楽部：第70回全日本吹奏楽コンクール 銀賞、第46回全日本アンサンブルコンテスト中国大会 金賞

少林寺拳法部：第57回少林寺拳法中四国学生大会 組演武女子茶帯の部第1位、第12回少林寺拳法中四国学生冬季大会 組演武男女有段の部第1位

卓球部：第62回全国国公立大学卓球大会　男子ダブルス第3位、第73回中国学生卓球選手権大会春季大会 男子シングルス第1位
第43回中国学生卓球連盟会長杯争奪卓球大会 男子ダブルス第1位・男子シングルス1位　他

その他学生支援事業　：400人・12件　278万円

○学生の自主的活動　5件（人文学部1、工学部2、創成科学研究科（工）1、教育・学生支援機構1）　計50万円

○学生の就職支援・教育環境の改善等　2件（教育・学生支援機構）　計156万円

○フードパントリー in 山口大学
NPO法人・学生団体「Balloon」と共催し経済的困窮学生に食料品を支援：基金負担　52万円
12月18日～12月20日　計400人（吉田キャンパス250人、小串キャンパス50人、常盤キャンパス100人）

○YU学生アイデアコンテスト2023　5件　計20万円

表彰　最優秀賞：1件 10万円　医学部「小野茶石けん"小野茶chacha"の紹介」
優 秀 賞：3件 各3万円　教育学部・経済学部「ステップアップ型インターンのマッチング支援サービス」
国際総合科学部「プラスチックをリサイクルしていますか？ ～高圧洗浄機から考える～」
国際総合科学部「物語への没入感を高める1 冊ごとの、1章ごとの最適音楽付きの次世代本」
審査員特別賞：1件 1万円　国際総合科学部「『困った！』を助ける食品容器の改善アイデア～寿司容器とヨーグルト～」

研究プロジェクト・国際交流・地域連携等事業への支援　：29人・14件　1,155万円

○若手研究者研究プロジェクト　1人当たり上限20万円　23人　計438万円
＊研究者 15 人：人文学部1、教育学部3、創成科学研究科（理）3、医学系研究科4、創成科学研究科（工）2、医学部附属病院2
＊博士後期課程学生 8 人：創成科学研究科（理）4、医学系研究科1、創成科学研究科（工）3

○名誉教授研究プロジェクト　1人当たり20万円　5人　計100万円　＊教育学部2、理学部1、医学部1、工学部1

○学術講演会等開催　1件当たり　国内：20万円　国際：40万円　7件　計147万円
＊共同獣医学部1、創成科学研究科（理）2、医学系研究科1、創成科学研究科（工）1、大学研究推進機構1、時間学研究所1

○出版支援事業　1人当たり20万円　1人　計20万円　＊国際総合科学部1

○国際交流・海外学術交流等支援事業・留学生との交流に関する支援事業　2件　計400万円

○地域連携・地域貢献活動事業　1件当たり10万円　5件　計50万円
＊理学部1、工学部1、国際総合科学部1、医学部附属病院1、総合技術部1

宇部市ふるさと納税を始めました ＊返礼品無しのため、宇部市在住の方もご寄附いただけるふるさと納税です。

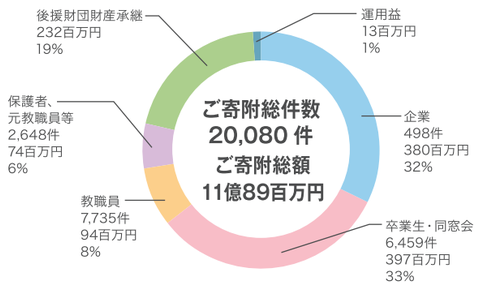
山口大学（医学部・医学部附属病院・工学部）は、宇部市と高等教育機関とが連携し人材育成事業を応援する『未来を創る「革新の種」育成ふるさと寄附』制度に参加しています。教育機関と地域が一体となり、将来の地域社会を担う優れた人材の育成と地域の持続的な発展を目指します。いただいたご寄附は、宇部市が行う若者支援事業費等を除いた7割がご指定の学部等に交付され、以下に掲げる人材育成支援事業に活用します。

【医学部】 先進的で独自の教育カリキュラムによりバランス感覚に優れ、高い人間力を持ち、医療の国際化に対応し社会に貢献できる医療人材の育成を目指します。
●学生の海外留学支援　●修学環境の充実　●地域医療を学ぶ機会の充実
●学外の専門家による特別講演の実施　●課外活動の充実

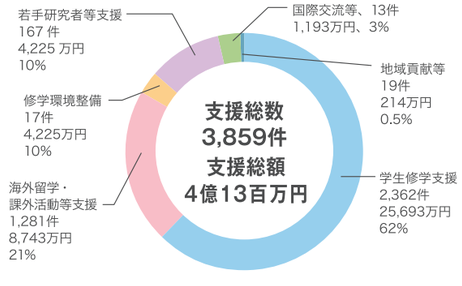
【医学部附属病院】 山口県の医療を支えるチーム山口のリーダーとして医療マインドを持ち国際基準の優れた技術と温かいホスピタリティを備えた人材の育成を目指します。
●海外留学支援　●人材育成環境の充実　●研修会・学会等への参加に関する支援
●最先端分野の専門家による特別講演や高難度手術の見学等の実施
●高度な研究力を備えた人材育成のための支援

【工学部】 持続可能な社会の実現に向けて、新たな社会価値の創造に挑戦し、未来社会を牽引する工学系人材の育成に取り組んでまいります。また、Society5.0の実現に向けて、より便利で、より安全で、より豊かな未来を提供する工学系人材の輩出を目指します。
●グローバルエンジニア人材育成支援　●デジタル（高度情報）人材育成支援　●イノベーション人材育成支援　●研究者支援

寄附実績（令和5年度末現在）



支援実績（令和5年度末現在）



山口大学基金に関するお問合せ

山口大学基金事務局
Tel 083-933-5622　Fax 083-933-5624
kikin@yamaguchi-u.ac.jp

地域医療の最後の砦

山口大学病院が目指す「安心」と「未来」

本院の重要な使命は診療、教育、研究の3つです。
これらの使命を達成するため、「一人ひとりの健康と安心の探求と実現」を理念とし、よりよい医療の提供、働きたくなる職場環境を目指して取り組んでいます。

Topics 大学病院改革プランを策定しました

医師の働き方改革に伴う医師の労働時間の適正化の推進と大学病院における教育・研究・診療という役割・機能を両立することを目的に「山口大学医学部附属病院改革プラン(2024年6月)」を策定し、ホームページで公表しました。

本院の改革プランは、大学全体の「明日の山口大学ビジョン2030」も踏まえつつ、病院長のリーダーシップのもと、運営改革、教育研究改革、診療改革、財務経営改革各プランを策定しています。くわしくは、病院ホームページよりご覧ください。

↓病院ホームページはこちら

Topics AIやシステムバイオロジー技術で医療技術を向上

山口大学大学院医学系研究科・医学部附属病院AIシステム医学・医療研究教育センター（AISMEC）は、医用AIとシステム医学を両立して推進する先進的なセンターとして2018年に設置され、医学部にてデータサイエンスを駆使した研究及び教育の中核を担っています。

また、疾患の管理と治療の改善に役立つ新しいツールの開発と実用、医療者や学生のスキルアップのためのVR（仮想現実）技術を活用した教育プログラムの開発と実施などを行っています。

←AISMECのホームページはこちら

Topics 「診療科等連携部門（バーチャルセンター）」の活動を強化

大学病院ならではの専門性を刻々と変わる医療ニーズに対応させるため、バーチャルセンターを設置し、各部門が連携したチーム医療を提供しています。

市民公開講座を開催するなど、地域の皆様に大学病院の治療を知っていただく取り組みも行っています。公開講座は、FMきららで放送したほか、YouTube山口大学病院チャンネルで配信しています。

↓YouTube 山口大学病院チャンネルはこちら

Topics YUME放課後交流会を開催

本院では、職員同士のコミュニケーションのきっかけづくりの場となる「YUME放課後交流会」を開催しました。会話のきっかけとなる各種イベントを用意。多数の職員に好評を得ています。

Topics 連携協定を締結し県内の地域医療の発展を目指す

令和6年8月に公益社団法人山口県看護協会と本学附属看護実践教育センターは、地域構造の変化や高度化する医療と看護に関連する社会的要請に、的確に対応できる優れた看護職人材を養成し、地域医療の発展に寄与することを目的に連携協定を締結しました。

また、令和6年11月に、地方独立行政法人山口県立病院機構山口県立総合医療センターと山口大学は、県内総合診療医の育成、へき地・在宅医療の取組強化及び自治医科大学出身医師への学位付与など、キャリア形成支援に関する連携協定を締結しました。

Topics 厳しさを増す病院経営

国立大学病院は、教育、研究、診療機能を担う重要な機関であるとともに、安心・安全な医療を提供する、地域医療最後の砦としての役割を担っています。

一方で、医療の高度化に伴う高額医薬品等の使用による医療費の増加、物価及びエネルギー価格の高騰、働き方改革等による人件費の増加等の影響により、国立大学病院は厳しい財政状況下での経営を余儀なくされています。国立大学病院長会議記者会見資料によると、令和6年度の収支は、42国立大学病院のうち、25病院が支出超過の見込み（令和7年5月9日時点）となっています。

本院では、安心・安全な医療を将来にわたって提供するために、平成26年度から新病棟の建設や既存病棟の改修を進めていますが、物価及びエネルギー価格の高騰等により、工事費も高騰しており、現在大変厳しい経営状況にあります。この状況を打開するため、休日診療や医療材料の価格交渉等に病院一丸となって取り組んでいるところですが、安定的な病院経営のために皆様から力強いご支援をいただけますと幸いです。

←山口大学病院へのご寄附はこちら

Yamaguchi University

Data Sheet

― 山口大学データ集 ―

山口大学の 気になる数字

卒業生・大学院学位 授与者数

日本全国、世界各国の幅広い分野で活躍中

累計129,270人

令和6年3月31日現在

学生数

9,989人

令和6年5月1日現在

学部生8,542人、修士課程992人、
博士課程387人、専門職学位課程68人

教職員数　4,063人　令和6年5月1日現在

特命理事1人、教員1,075人、事務職員443人、技術職員73人、
医療職員268人、看護職員895人、その他職員192人、
非常勤職員1,116人

起源

山口大学は、東京大学・東北大学に次いで

日本で3番目に歴史のある大学

※江戸時代後期1815(文化12)年、長州藩士・上田鳳陽によって、
創設された私塾・山口講堂が前身

学部・大学院

9学部
（人文、教育、経済、理、医、工、農、
共同獣医、国際総合科学）

1学環
（ひと・まち未来共創）

7研究科
（人間社会科学、教育学、医学系、創成科学、
東アジア、技術経営、共同獣医学）

面積

土地

1,104,610㎡

令和6年5月1日現在

建物

建面積　142,628㎡
延面積　429,716㎡

総面積は東京ディズニーランド※の2倍以上！！

国際交流

協定数　35ヵ国・地域　175機関

令和6年5月1日現在

外国人留学生数　37ヵ国・地域　407人

令和6年5月1日現在

海外派遣学生数　246人

令和5年度

令和4年度から長期留学が本格的に再開し、外国人留学生数はコロナ前の状況に戻りました。海外派遣学生数も増加しつつあり、国際交流も活発になっています。

外国人教職員数　54人

令和6年5月1日現在

研究

科学研究費助成事業

採択数　468件
交付金額　約9.1億円
採択率　34.3%

令和6年10月31日現在

論文数　3,898件　令和3年-令和5年 累計

国内特許保有件数　462件　令和6年3月31日現在

※「東京ディズニーランド」は米国法人ディズニー・エンタプライゼズ・インクの登録商標です。

入学志願者・入学状況
（令和6年度）

入学者の都道府県別分布
(出身高校等所在地による)

入学者総数 1,939人

北海道・東北

北海道	8	秋田県	1
青森県	0	山形県	1
岩手県	0	福島県	0
宮城県	1		
合計	11		

中部

新潟県	0
富山県	2
石川県	4
福井県	3
山梨県	2
長野県	3
岐阜県	9
静岡県	28
愛知県	26
合計	77

中国

鳥取県	18
島根県	68
岡山県	89
広島県	385
合計	560

山口県
山口県 498

近畿

三重県	11
滋賀県	5
京都府	14
大阪府	31
兵庫県	88
奈良県	11
和歌山県	11
合計	171

関東

茨城県	5	千葉県	5
栃木県	4	東京都	11
群馬県	0	神奈川県	15
埼玉県	5		
合計	45		

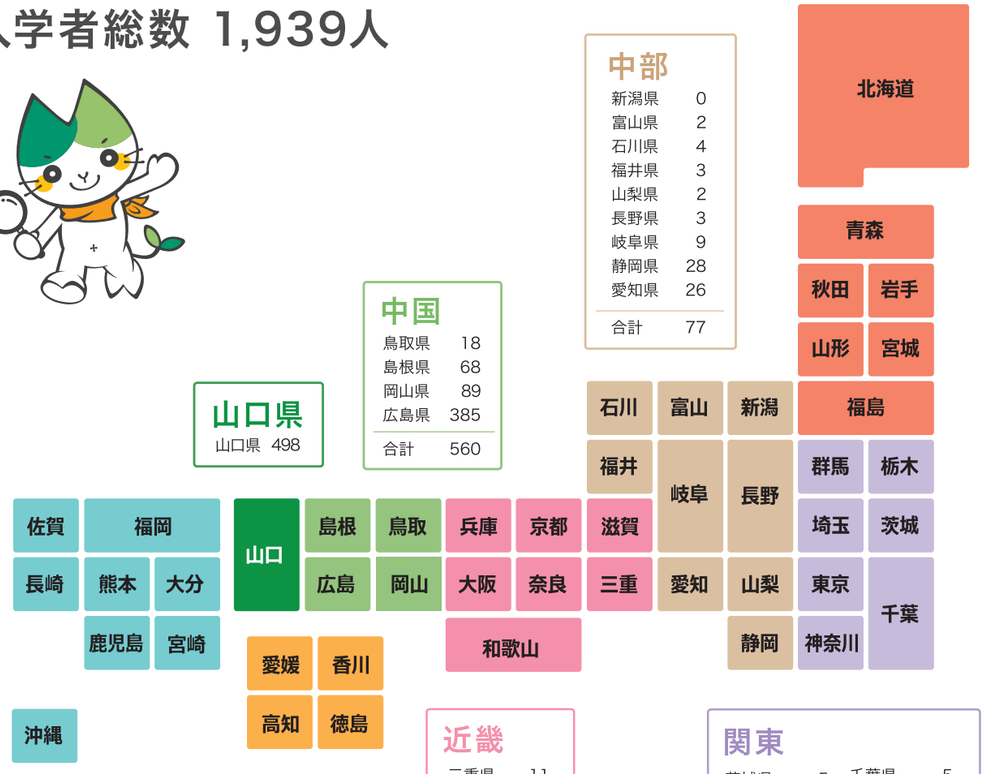
四国

徳島県	13
香川県	14
愛媛県	47
高知県	5
合計	79

九州・沖縄

福岡県	234
佐賀県	31
長崎県	54
熊本県	26
大分県	63
宮崎県	29
鹿児島県	26
沖縄県	18
合計	481

その他
留学生、帰国生徒等 17



学部別入学定員・志願者数・合格者数・入学者数

学部	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
人文学部	185	775	209	195
教育学部	180	445	191	180
経済学部	345	1,018	385	345
理学部	220	852	261	223
医学部	229	1,196	247	229
工学部	530	1,286	611	532
農学部	100	337	113	104
共同獣医学部	30	159	31	31
国際総合科学部	100	217	111	100
合　計	1,919	6,285	2,159	1,939

卒業者・修了者の就職状況（令和5年度）

学部

産業別分類＼学部		人文	教育	経済	理学	医学	工学	農学	共同獣医	国際総合	全体
卒業者（人）		185	178	331	183	224	485	106	27	98	**1,817**
進学者・留学者等（人）※		15	13	11	98	13	330	48	7	3	**538**
就職者（人）※		152	160	305	75	208	145	57	19	91	**1,212**
就職者内訳（%）	建設業	4.6	0.0	5.6	8.0	0.0	24.8	3.5	0.0	3.3	**5.9**
	製造業	8.6	1.3	11.5	17.3	0.0	17.9	28.1	0.0	19.7	**10.1**
	情報通信業、運輸業、郵便業	11.8	4.4	9.2	24.0	0.0	12.4	5.3	0.0	17.6	**8.9**
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	11.8	5.0	7.5	4.0	0.5	3.4	12.3	0.0	12.1	**6.3**
	金融・保険業	7.2	2.5	17.4	4.0	0.0	2.1	0.0	15.8	15.4	**7.5**
	医療、福祉	4.6	6.3	2.3	0.0	96.6	0.0	1.8	0.0	1.1	**18.7**
	教育、学習支援業	10.5	71.6	2.6	12.0	0.0	0.0	5.3	0.0	7.7	**13.0**
	複合サービス事業、サービス業	15.1	1.3	13.1	17.3	0.0	7.6	8.8	63.1	8.8	**9.4**
	公務	21.9	6.3	23.6	10.7	2.4	27.7	29.6	21.1	7.7	**16.2**
	その他	3.9	1.3	7.2	2.7	0.5	4.1	5.3	0.0	6.6	**4.0**

大学院

産業別分類＼研究科		人文科学	教育学（修士）	教育学（専門職）	経済学	創成科学（博士前期）	医学系（博士前期）	技術経営	創成科学（博士後期）	医学系（博士後期）	東アジア	共同獣医	全体
修了者（人）		12	7	22	26	462	12	21	31	31	7	9	**640**
進学者・留学者等（人）※		1	0	0	1	22	2	2	0	0	0	0	**28**
就職者（人）※		7	6	21	17	434	10	17	26	30	3	9	**580**
就職者内訳（%）	建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	9.9	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	**7.8**
	製造業	28.6	0.0	0.0	11.8	55.8	30.0	41.2	34.8	0.0	0.0	0.0	**45.6**
	情報通信業、運輸業、郵便業	14.3	0.0	0.0	5.9	13.6	0.0	11.8	11.5	0.0	0.0	0.0	**11.4**
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	0.0	0.0	0.0	5.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.5**
	金融・保険業	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	33.3	0.0	**0.7**
	医療、福祉	0.0	83.3	0.0	0.0	0.7	60.0	0.0	0.0	90.0	0.0	0.0	**7.1**
	教育、学習支援業	57.1	0.0	100.0	0.0	1.6	0.0	5.9	19.2	6.7	66.7	11.1	**7.4**
	複合サービス事業、サービス業	0.0	0.0	0.0	11.8	10.8	10.0	0.0	11.5	3.3	0.0	22.2	**9.7**
	公務	0.0	16.7	0.0	0.0	3.0	0.0	17.6	7.7	0.0	0.0	11.1	**3.4**
	その他	0.0	0.0	0.0	52.8	4.1	0.0	23.5	3.8	0.0	0.0	55.6	**6.4**

大学院（全体）

産業別分類		修士・博士前期	博士後期
修了者（人）		562	78
進学者・留学者等（人）※		28	0
就職者（人）※		512	68
就職者内訳（%）	建設業	8.4	2.9
	製造業	50.0	13.2
	情報通信業、運輸業、郵便業	12.3	4.4
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	0.6	0.0
	金融・保険業	0.4	2.9
	医療、福祉	2.7	39.9
	教育、学習支援業	6.4	14.7
	複合サービス事業、サービス業	9.8	8.8
	公務	3.3	4.4
	その他	6.1	8.8

※「進学者・留学者等」、「就職者」には留学生及び有職者を含む。

Web
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/

X
ID @YamaguchiU_koho

Facebook
山口大学 (Yamaguchi University)

YouTube
山口大学広報室チャンネル

山口大学レポートに関するご意見等をお寄せください。 yu-info@yamaguchi-u.ac.jp

発行:山口大学総務企画部広報室　発行年月:2025年6月

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学